

赤木正雄会員の文化勲章受章をよろこぶ

土木学会会長 高 野 務

11月3日、菊花薫る文化の日に学会会員赤木正雄博士が文化勲章を受賞されたことは、わたくしども土木技術者として非常に喜びと感激を覚えるものであります。

赤木博士の足跡に関しては、わたくしがここで申し上げるまでもなく、みなさまのよくご承知のことと存じます。

赤木博士は、わが国における砂防計画学の創始者であり、国土総合開発計画に関する卓越せる指導者としての功績は、まことに大きいといわねばなりません。

氏は国土を保全し、かつ開発し振興するために、砂防事業の必要性を大正初期より提唱され、とくに戦後の荒廃した国土復興に際しては、自説に基づく計画の推進をはかり、砂防事業を合理的かつ経済的に実施し、国土の保全に対し、いまだ国際的にその例を見ない重要な指針を確立されたのであります。これはその方法論において欧米の学説を上回るもので、現に「サボー」の名称は国際用語として用いられております。

また一方において、同氏の治山治水砂防工学上の学識も非常に卓越したもので、その文献は不朽の名論として国の内外に有名であります。

現在わが国の砂防工事のすべてが同氏の理論に基づき施工されていることは論をまたないところであり、なかでも著名なものをあげると建設省直轄事業では富士川流域砂防工事、淀川流域砂防工事、吉野川流域砂防工事、桂川流域砂防工事、千曲川流域砂防工事、神通川流域砂防工事、相模川他四河川流域震災復旧砂防工事、木津川流域砂防工事、揖斐川流域砂防工事、常願寺川流域砂防工事、手取川砂防工事、阿武隈川流域砂防工事、天神川砂防工事、利根川（烏川）流域砂防工事、最上川流域立谷沢川砂防工事、信濃川流域魚野川砂防工事、利根川水系渡良瀬川砂防工事、天竜川流域小渋川砂防工事、安倍川流域大河内川砂防工事、庄内川流域土岐川砂防工事、木曾川流域中津川落合川砂防工事、六甲山系砂防工事等があります。また、都道府県砂防事業は全国的に実施されておりますが、著名なものをあげますと、京都府雲原村砂防工事、長野県夜間瀬川砂防工事、岐阜県養老山系砂防工事、山梨県船山川砂防工事、神奈川県早川砂防工事等があります。

これらは、いずれも同氏の総合砂防工学の理論に基づ

くものであります。また、昭和10年、全国治水砂防協会を創立し、国土保全の基盤をなす砂防事業の拡大に邁進する原動力を結集され、現在同協会専務理事として会務を統括するほか、機会あるたびに砂防思想の普及にとめられ、一般の世論を喚起して砂防事業の発展に著しい貢献をされている。とくに昭和23年11月12日戦後の復興に際し、天皇陛下に砂防と治水に関しご進講を申し上げ、陛下より実に有益であったとのご満足のおこたを賜わっております。



文化勲章を胸に、喜びの赤木正雄博士

氏の砂防工学に関する数々の研究業績の成果は総合砂防計画学として今日のように発展体系化したのであります。なお、氏の教えを受けた砂防工学・土木工学・山林工学の各分野の多くの後継者によってこの業績はさらに高められつつあるのであります。

赤木博士のご略歴

大正3年7月、東京帝国大学林学科卒業後、内務省に入り、吉野川改修阿波砂防工事に従事、大正12年荒廃溪流の性状とそれの陶冶に関する研究のためオーストリア国に留学、昭和10年「わが国の砂防の工法について」により学位を受く。昭和13年内務省土木局第三技術課長、昭和17年3月退官。その後参議院議員。現在政府機関の各種審議会委員として活躍。